

# 国労水戸

国労水戸地方本部  
 水戸市中央1-1-11  
 ENYビル2F  
 029-221-4008  
 発行責任者 大和田亨  
 編集責任者 坂本公則

# もう一人の仲間を

第7回組織強化・拡大東プロック経験交流会が、5月12日～13日に熱海市で開催され、全国から90名の仲間が結集しました。水戸地本から3名が参加し、全国の仲間と交流を深めました。

一日目は、労働講座「労働条件の不利変更とは」と題し、国労弁護団より岡田弁護士から講演を受けました。続いて、近畿・九州・広島・仙台・東京（青年部）から、特別報告を受けました。とりわけ、対話活動や学習活動の強化、そして粘り強い行動によって国労加入を勝ち取った報告や職場でのあいさつ・話し込みを継続的に行い、他労組若手社員とのつながりを持ち、若手社員に早く加入用紙を持ってこいと話しているという報告がありました。

私が参加した分散会では、2時間弱の交流になりましたが、関連

労働者の拡大に力を入れている（札幌）支部として、3回の組対会議を開催しリストアップ者との交流状況やオルグ者の悩みを出し合っている。地区本部として組合説明会を開き、他労組からの参加がある。（横浜）班として、年2回のバーベキューを開催し、駅から車掌へ行った若手社員が毎回10～15人参加してくる。（新橋）2年前の新採加入により「分会もやれば取れるんだ」「差別をさせない、俺たちがやっつけていこう」と変化して来たことが大きい。今年の社会人1名を加入させた。（大船保技セ）分散会終了後、夕食と全体懇親会を兼ねた全体交流会を開催し、北海道から各地方毎に自己紹介を行い、地方の現状や組織拡大を勝ち取る決意がされ、親睦を深めました。

二日目は、分散会報告と拡大を

勝ち取った地方本部の報告、エリア本部の決意表明を受けました。国労本部小池業務部長より、「JR貨物会社社長の賃金抑制発言についての説明と、国労として団体交渉で責任追求し、引き続き闘の強化を図ると提起がされました。

今後は、各職場で他労組を巻き込んだ署名活動など取り組んでもらいたい、好機と捉え組織拡大に全力を挙げることを確認しました。まとめに国労本部田中副委員長から、「国労加入の大胆な呼びかけ」「職場活動の活性化」「点検分析を行い、目標を確実にやりきる」ことを改めて指示が行われ、全組合員の総決起で国労本部「闘争指令1号」をやりきることを確認しました。

最後に、真子書記長の団結カンパロー三唱で二日間の交流会を終了しました。



## 貨物会社の不利変更は許さない

24年度黒字決算、25年度34億円の経常利益計画、それなのに「なぜ」賃金抑制なのか。鉄道事業部門の計画との乖離を要因に挙げるが、そもそも「なぜ」鉄道事業部門が黒字にならないのかである。

線路を持たない第2種鉄道会社故に、重く押し掛かる線路使用料、足の長い列車は災害に弱く、立ち上りの運転整理の問題が、商品価値を下げ荷主を逃がすことになっている。また、トラック代行料やコンテナ回送費用も莫大である。老朽設備を継承したことで更新の為の設備投資で借金が増加し、発足時背負った944億円の長期債務は、ほぼ2倍の約1800億円に膨れ上がっている。

国労は、会社発足時から求めているこれらの「構造矛盾」を解決することなく、貨物会社の健全経営は成り立たず、働く私たちの生活改善もあり得ないと指摘し続けている。

## 会社経営陣の一方的な言い分

賃金削減は、外部圧力によって、鉄道事業部門の早期黒字化が求められるなか、平成23年度鉄道事業部門72億円が平成24年度には78億円に拡大し、経営自立計画（38億円）との乖離を指摘され、「公務員も賃金抑制をしている、なぜ踏み込めないのか」の声に呼応した社長発言に端を発している。

しかし、賃金を削減する理由がない。24年度決算は黒字を達成し、25年度収支は人件費カットで34億円の黒字計画となっており、「高度の必要性や合理性」がまったくない。